

令和3年度
事業報告書
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

社会福祉法人あいあい福祉会

特別養護老人ホーム みず和の郷
ショートステイ みず和の郷
居宅介護支援事業所 みず和の郷

社会福祉法人あいあい福祉会

【法人基本理念】

『共に生きる しあわせ』

【みず和の郷基本理念】

- 1、 お年寄りが人としての尊厳をもって地域や施設の中で、その人らしい 自立した生活を送れるように支えていきます。
- 2、 職員が和を持ち、「奉仕・愛情・信頼」の心を根幹として、毎日が心豊かな日々でありますよう全力をあげてお守りいたします。
- 3、 施設が地域住民・関係団体と活発に交流し、地域と共に生きることを目指していきます。

【みず和の郷基本方針】

- 1、 お年寄りの人権を守り、心身ともに健やかな生活を営むことのできる生活支援の取り組みに努める。
- 2、 お年寄りと職員が、介護を通じて相互の信頼関係の強化に努める。
- 3、 お年寄りと職員が、共に生きる喜びを味わうことのできる施設造りをする。
- 4、 職員すべては、その職務において介護の専門性を向上させるため、学習とその実践に邁進する。
- 5、 お年寄り一人ひとりが豊かな生活の確保と地域社会に参加できるように支援する。

《支援部門》

1、特養入所状況

	入居者（人）			延べ日数	居室稼働率		入居者（人）			合計	居室稼働率
	入居者数	入居	退居	合計			入居者数	入居	退居		
4月	70	1	0	2,042	97.24%	10月	70	1	0	2,049	94.42%
5月	69	1	2	2,165	99.77%	11月	70	2	2	2,032	96.76%
6月	70	1	0	2,091	99.57%	12月	69	1	2	2,137	98.48%
7月	70	1	1	2,105	97.00%	1月	69	1	1	2,025	93.32%
8月	70	0	0	2,145	98.85%	2月	70	1	0	1,915	97.70%
9月	69	1	2	2,069	98.52%	3月	69	1	2	2,085	96.08%
合 計	令和2年度 月平均稼働率 98.27%										
	令和3年度 月平均稼働率 97.31%										

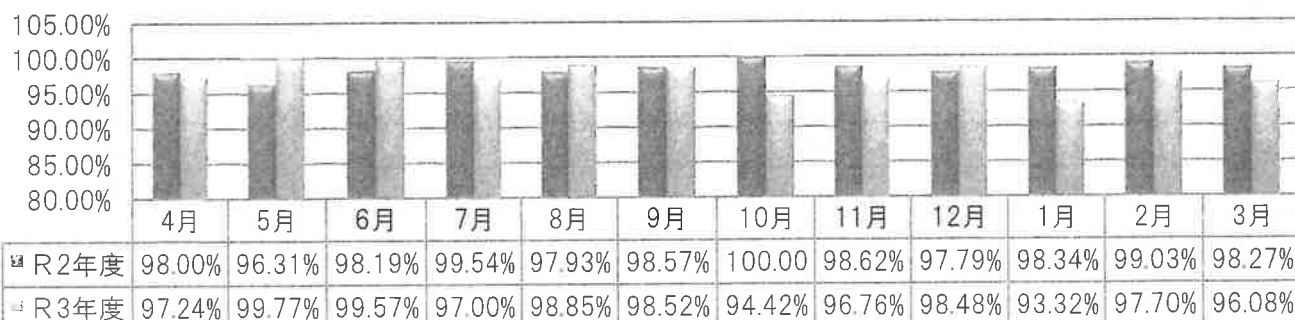
- ・前年度と比較し稼働率は 0.96%減少したものの、看取り介護者や経口摂取が難しくなっている方の食事内容を見直し、少量で高カロリー摂取できる栄養補助食品等を導入することで、無理なく経口摂取を続けることができ、体調の安定を図ることができた。

入院者数・延べ日数

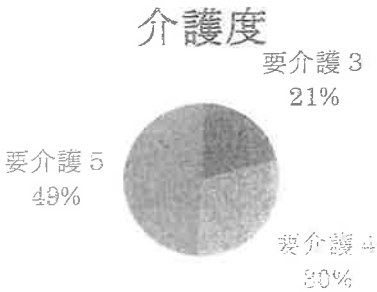
R2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	1	4	0	0	3	1	0	4	2	1	2	3	21
延日数	37	67	35	1	49	24	0	25	47	24	18	66	393
R3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	3	1	1	3	4	3	6	3	5	7	3	6	45
延日数	46	1	1	57	25	28	118	54	29	137	41	60	597

- ・重度化の影響があり、特に後半において実人数および延日数ともに増加傾向にあった。

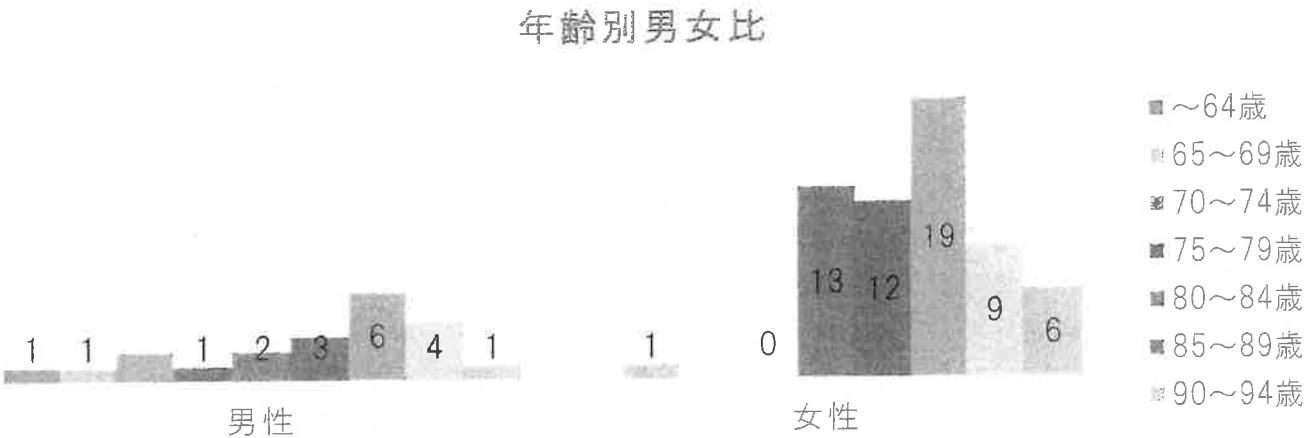
入居状況



2、在籍者別年齢・要介護度等



平均介護度 4.28 (男性 4.09、女性 4.33)



平均年齢 89.1 歳（男性 86.3 歳、女性 90.1 歳）（最高 103 歳、最低 64 歳）
・平均在所日数が前年度と比較し5ヶ月伸びている。在所日数が伸びることで、必然的に年齢や介護度は上がり、今年度は100歳を迎えるご利用者が7名在籍。超高齢化、重度化が年々進むと共に、月平均11名の看取り介護者を抱えながらの介護となっている。

3、在所期間入所者状況（退所者含む） (令和4年3月31日現在)

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上	合計
男性	4	8	6	2	1	0	21
女性	8	25	13	11	2	1	60
合計	12	33	19	13	3	1	81
割合(%)	14.8%	40.7%	23.5%	16.0%	3.7%	1.2%	100%

平均在所日数	男性	女性
3年2ヵ月	3年2ヵ月	3年7ヵ月
最高在所日数	13年1ヵ月	15年5ヵ月

保険者別

■福島市 ■二本松市 ■川俣町 ■飯館村 ■南相馬市 ■浪江町

人数

53

13

5、令和3年度特養活動報告

I. 介護支援専門員

- ・令和3年度各種集計結果より、年々年齢や介護度が上がり在所日数も伸びている中で、稼働率がわずかに減少。減少の要因としては、入院者（入院日数）の増加が考えられる。病院にて適切な治療を受けて、施設で長く生活して頂くことができるよう対応に努めたためである。
- ・看取り介護者や経口摂取が難しい方への食事内容の見直しにより、少量で高カロリー摂取できる栄養補助食品等を導入し、無理なく経口摂取を続けることができるよう取り組むことで、看取り介護者の看取り期間も伸びてきており、看取り介護開始となってから4年近く施設での生活が継続できている方もいる。施設で看取り介護を希望されるご家族も増えており、看取り介護者の人数も毎月1～2名ずつ増えている。看取り介護者は食事を1日数回に分けて分割提供し、状態変化時のこまやかな対応が必要なため、他利用者と比較すると介護に多くの時間を要する現状にある。
- ・入所時や退院時、体調変化に応じ迅速にカンファレンスが開催できるよう調整し、各部門が混乱なくスムーズに対応ができるよう努めることができた。
- ・日頃から情報収集とご入居者の心身状態の把握に努め、カンファレンスの中でその情報を共有するとともに、専門職の知識を引き出し、ご家族やご本人の意向も汲み取りながら、より良いケアが行なえるよう計画書の作成に努めることができた。
- ・一人ひとりご入居者のこまやかなケアができるよう、計画書の評価に基づき、カンファレンスの開催、計画書作成まで居室担当者と協力し実施することで、担当者が責任を持ちユニット職員全体への周知を図り、質の高いケアが提供できるよう努めることができた。
- ・コロナ禍、ご家族とご利用者が直接触れ合う機会が難しい中で、ご家族にもできる限り安心して頂けるよう、オンライン面会や窓越し面会を勧めるとともに、ご利用者の生活状況や状態変化をこまやかにご家族へ報告し信頼関係の構築に努めることができた。

II. 生活相談員（特別養護老人ホーム）

年度	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3
居室稼働率%	97.26	97.07	96.89	98.27	97.31
入所者数	27	19	24	12	12
退所者数	18	18	26	11	12
平均介護度	4.01	4.04	4.08	4.12	4.29
入院実人数	34	40	46	21	45
入院延日数	499	640	587	393	597

※平成29年12月けやきユニット10床オープン（10名入所）

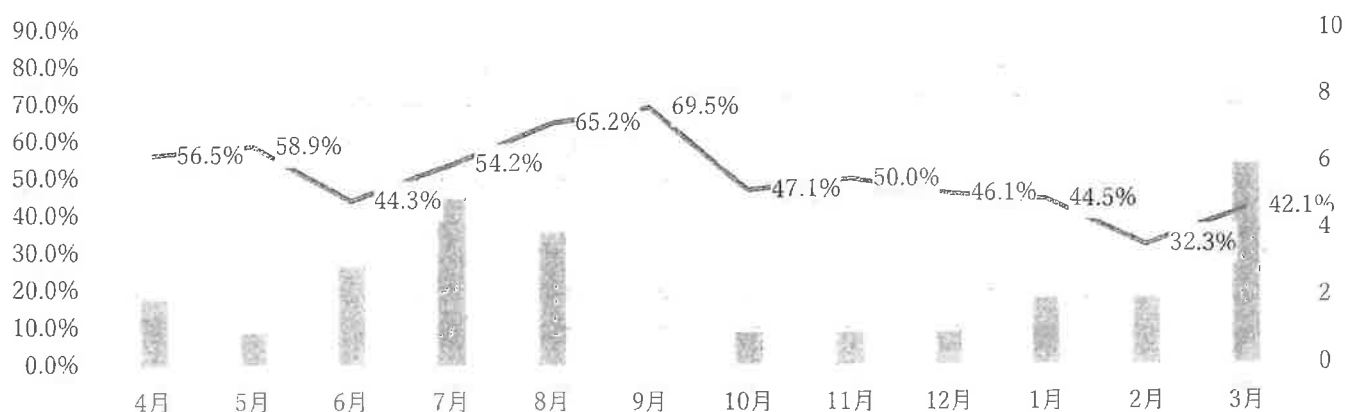
- ・昨年度と比較し、入退所数にはほとんど変化なかったが、入居者の超高齢化により介護度の上昇や医療依存度が高くなっていること、ご家族が病院受診を希望することが増えている等の理由から、入院実人数が増加しそれとともに入院延日数が増加してしまい居室稼働率が低下してしまう結果となった。
- ・老人保健施設からの入所の場合、特養に空床が出てから1週間以内の入所が大変難しく入所までに2週間を要しているのが現状であり、これも稼働率低下に繋がっている。
- ・出来る限り最期まで施設で他職種協働して看取りを行うことが出来ており、特養としての役割を果たすことが出来ていると考える。
- ・受診しても老化によるものや、これ以上治療困難と診断され帰設して主治医と再度面談を行うことで、ご家族も職員も納得して看取り介護に移行することが出来ており、昨年度看取り介護とした10名中4名が逝去されたが適切な時期に看取り介護に移行でき看取りケアが出来たと評価できる。
- ・百寿お祝い会が立て続けに4件あったが、他職種連携して滞りなく開催することが出来た。
- ・新型コロナウイルス感染予防の観点から長期間直接の面会制限を行っていたが、12月に一時面会可能となりKPには直接電話をして面会を勧めたが直接の面会は予想していたより増えず、ご家族と施設との距離間を感じた。オンライン面会がほとんどないご家族には積極的にオンライン面会を勧めていくことが課題である。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行により、地域行事への参加やボランティアと介護等体験実習生の受け入れが予定通りに実施できなかった。

6、ショートステイ実績

月 理由別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者 数	男	14	14	12	14	17	12	11	11	15	14	10	14	
	女	22	23	21	21	21	22	18	18	18	14	12	19	
延べ 利用 日数	支1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	支2	4	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	9
	1	33	39	52	89	43	48	60	40	24	28	20	48	524
	2	43	47	44	30	54	62	55	49	63	55	34	25	561
	3	34	29	28	42	84	84	45	39	30	40	23	82	560
	4	87	55	66	112	155	138	65	99	109	114	55	64	1119
	5	138	195	74	63	65	85	67	73	60	39	49	42	950
	計	339	365	266	336	404	417	292	300	286	276	181	261	3723
稼働率	%	56.5	58.9	44.3	54.2	65.2	69.5	47.1	50.0	46.1	44.5	32.3	42.1	51.0
R2年度	%	53.2	61.1	60.0	66.5	62.6	72.7	66.6	67.5	60.5	55.3	60.9	59.7	62.2
男性平均 84.6 歳 女性平均 87.5 歳 (全体平均 86.5 歳) 最高年齢 102 歳 最低年齢 65 歳														

※令和4年9月から1ユニット休止

令和3年度 ショート稼働率及び新規利用者数



【居宅介護支援事業所名】	(人数)	(定期)	ケアサービスセンターみどりの郷	2	
ふくしま訪問看護ケアプランセンター	6	2	指定居宅介護支援事業所あだたら	2	
あづま脳外居宅介護支援事業所	5	2	まごころケアサービス二本松	2	
居宅介護支援事業所みず和の郷	5	1	ライフ・タイム福島居宅介護支援事業所	2	
指定居宅介護支援センター松陵	5	1	アグリホーム指定居宅介護支援事業所	1	1
ライフ吉井田居宅介護支援事業所	4	2	コパン居宅介護支援事業所	1	1
つどい支援事業所 福島	4	1	優心指定居宅介護支援事業所	1	1
指定居宅介護支援事業所 ひまわり苑	3	2	あだたら荘指定居宅介護支援事業所	1	
居宅介護支援事業所はなしのぶ	3	1	居宅介護支援事業所なごみ	1	
ケアプランセンター小倉寺	3	1	土湯宝生園指定居宅介護支援事業所	1	
リブレ松川居宅介護支援事業所	3	1	ニチイケアセンター南福島	1	
よろこび介護支援センター	3		ハッピー愛ランド	1	
介護支援事業所さわやかアイリス	2	1	やまなみ介護支援事業所	1	
居宅介護支援センター グリーンライト	2	1			
すかわ指定居宅介護支援事業所	2	1	【地域包括支援センター名】		
エルダーランド居宅介護支援センター	2		蓬萊地域包括支援センター	1	
居宅介護支援事業所 シニアガーデン	2		杉妻包括支援センター	1	
居宅支援事業所にほんまつ・あだち	2		信夫地域包括支援センター	1	

7、令和3年度ショートステイ活動報告

- ・コロナ禍ではあるが、事前の体調確認や自宅での検温の実施、状況に応じて居室隔離を行う等ご家族様の協力、ご理解、また、各部署との連携により、年間を通しサービスを提供することができた。
- ・レクリエーション、行事面は、『ご飯の日』『おやつの日』等クッキングレクが女性利用者だけでなく、男性利用者にも定着してきた。また、散髪日の年間・料金表を作成したことで、アピールポイントに繋がり、外部にも情報発信できた。
- ・苦情に対しては、1年を通し大きなクレームなく対応できた。利用者様、ご家族様からの指摘を頂いた際は、早期に職員間での周知徹底に努め、サービス向上に繋がっている。
- ・昨年3月よりオープンした『みず和の郷居宅』との連携により、新規利用者、長期利用者の確保に繋がっている。一方、長らくご利用頂いていた方の特養、老健等他サービス移行による利

用者離れも増えており、関係が希薄になっている事業所も出てきている。関係機関へのアピールを強化し、新規利用者の獲得、稼働率の回復を次年度の目標とする。

《介護部門》

○しゃくなげユニット

4月	18日 誕生会	9月	26日 ドライブ外出
5月	9日 母の日	10月	27日 誕生会
6月	13日 誕生会	12月	20日 誕生会
	20日 父の日（居酒屋）	1月	2日 書初め
	27日 紫陽花見学		16日 餅つき大会
7月	7日 七夕短冊作り		23日 誕生会
8月	29日 夏祭り	2月	3日 節分豆まき
			8日 誕生会

《活動報告》

- 1、ケアプランの周知・認識に欠けた点があり、職員間で介護の方向性に相違があった。
- 2、ご入居者の言動を観察し、ご本人やご家族の望みや意向に沿える介助を見出し、かつ職員の技量に応じ介助する事が出来た。
- 3、季節に応じた行事の企画を催し、誕生会ではご入居者それぞれに応じた内容を企画する事が出来た。また、月1回の実施ではなく、ご入居者が実施できる役割を設けるなど個別に応じた内容で、ご入居者主体の行事を行う事が出来た。
- 4、24時間シートの作成に取り組みは実施出来たが、変更点等の修正や改訂に手を加える面では不十分であった。
- 5、外出計画時は、いつも同じご入居者だけが外出している事のないよう配慮した。
- 6、ご家族面会時には写真や動画をお見せしたり、近況を報告し施設での生活状況をお伝えする事が出来た。

○しらかばユニット

6月	23日 父の日	1月	18日 百寿お祝い
	27日 誕生会 紫陽花見学		
7月	18日 誕生会	3月	13日 誕生会
8月	29日 夏祭り		

《活動報告》

- 1、ご入居者の生活スタイルや意思を尊重した支援が出来ていない場面が見受けられ、同様にご入居者とのコミュニケーションはしっかり取れていたとは言い難い状態であった。
- 2、ユニット会議が月に1回開催されず、なかなか活発に意見交換する機会を作ることができなかったため、意見は出たが解決までは至らず、現状維持の状態が度々あった。
対ユニットや他部門にも意見を求め、問題が先送りにならないよう注意していきたい。
- 3、他部門との連携について、ユニットからの発信がやや足りないところがあったが、意思の疎通は図れた。
- 4、清掃・環境整備について各居室担当に掃除等を分担したが、実施出来ない部屋が生じたため、各職員の意識付けを行い、行事等のない日曜日を利用してユニット全体で取り組んだ。

5、24 時間シートについては、全入居者の完成には至らなかった。継続し、取り組んでいく。

○さくらユニット

4 月		1 0 月	3 日 誕生会
5 月	16 日 母の日 誕生会	1 1 月	14 日 誕生会
6 月	13 日 父の日 手作おやつ	1 2 月	25 日 クリスマス会
7 月	18 日 手作り昼食	1 月	23 日 誕生会
8 月	8 日 夏祭り	2 月	3 日 豆まき
9 月	19 日 敬老会 誕生会	3 月	3 日 ひな祭り 手作おやつ

《活動報告》

- 1、ご入居者お一人おひとりに合わせた生活を送る為のアセスメントが十分に行えなかったが、共同生活の中で、その人らしい生活を送れるにはどうしたら良いか試行錯誤を継続したことで、ご入居者の声には職員一同寄り添ったケアが出来た。
- 2、ユニット内で起きた問題に対し可能な限り早急に対応してきたが、意見交換が難しかったり、職員間のコミュニケーションに欠ける事があり、今後の課題である。
- 3、ご入居者の思いや要望を引き出せるよう、日々のコミュニケーションを大切にし、お一人おひとりに合った思いやりのある声掛けや対応はされていたが、認知症に対する知識が職員によりバラつきがあり、知識の向上を図るようにしていきたい。
- 4、ご入居者個々に合わせた、統一されたケアが展開できるようノートや申し送り表を活用して統一したケアの実施は出来ていたが、24H シートの活用は出来なかった。また、見直し・作成に関して行えていなかった。
- 5、毎月行事を実施して、季節感のあるご入居者主体の行事を企画、実施出来たが、外の空気を感じれるような行事が少なかった。
- 6、常に清潔で気持ちよく生活して頂けるよう清掃・整頓に努めたが、人員不足にて居室内の細やかな所までは行えなかった事が多かった。

○もみじユニット

4 月	18 日 誕生会	1 0 月	24 日 誕生会
5 月	16 日 母の日	1 1 月	16 日 百寿お祝い
6 月	27 日 父の日	1 2 月	26 日 クリスマス会
8 月	8 日 夏祭り	1 月	1 日 お屠蘇
9 月	19 日 敬老会 誕生会	2 月	3 日 豆まき

《活動報告》

- 1、ご入居者の状態の把握に努め、その時々の変化に応じた対応に努めることができたが、職員都合になってしまっていた部分もあり、不十分な面があったように思う。
- 2、ご入居者の体調面、精神面、環境面に目を向け常に職員個々の技術、知識の向上に取組めた。ただ、職員間で技術や知識に差があり、ご入居者への対応にもばらつきが出てしまった。また、自発的な勉強会への参加なども不十分であった。
- 3、コロナ感染症や人員の不足などがあり、外出の機会を増やせなかった。
- 4、新規の方の 24H シートの作成には着手できなかった。以前に作成した方の分の更新もできておらず、活用も不十分に終わった。

- 5、ご入居者の対応については申し送りや記録での周知、その時々での検討・相談を行いながら取り組んだが、全員での意見交換の場が設けられず、なかなか統一されない事もあった。

○けやきユニット

4月	25日	花見ドライブ 誕生会	10月	17日	紅葉見学
5月	16日	誕生会 母の日	11月	7日	誕生会
6月	20日	父の日 紫陽花見学	12月	17日	百寿お祝い
7月	11日	七夕	1月	9日	新年会
8月	8日	夏祭り 誕生会	2月	14日	バレンタイン
				21日	豆まき 誕生会
9月	5日	ドライブ外出 誕生会	3月	6日	ひな祭り 誕生会

《活動報告》

- 1、ご入居者に合った対応を日々考え行動したが、寄り添った対応が出来たかは疑問に思う所がある。
- 2、職員によって介護技術の差のない統一したケアの実施を目指したが、意図が十分に伝わらず、リーダーからの指示がメインになってしまい、技術交流的な場が取れていなかった。
- 3、配属ユニットだけに留まらず、他ユニット職員全体及び他部門との連携を密にし、情報共有の徹底ができた。
- 4、定期的な清掃及び各居室の整理整頓は担当制にすることで責任を持って取り組めた。責任の所在が明確になる事によって自責的に活動できた。
- 5、職員同士の申し送りや伝達がよく行き渡らない事象が多々あった。予定通りに全員が集まる場を作れず、統一制に欠けていたと思う。
- 6、季節感のあるユニット行事や掲示物について、例年に比べ積極性に欠けていた。
- 7、ユニット内の環境整備、各居室のこまめな清掃はできていたが、自主的な取り組みが見られず、パート職員に支援してもらうことが多かった。

○あだたらユニット

5月	2日	母の日 誕生会	12月	25日	クリスマス会
6月	20日	父の日 誕生会	1月	1日	お屠蘇
10月	31日	誕生会	2月	3日	節分
				22日	誕生会

《活動報告》

- 1、職員間の報連相に関して、申し送りノートに詳細に記録したことや共通認識のため水分の摂取量等を掲示したことで、昨年度よりもできた。
- 2、居室、リビング等の清掃もできていたと思う。また、ここが汚れている等、指摘された際には、速やかに清掃を行った。
- 3、知識の習得・研修に関しては、介護福祉士取得を積極的に行った職員もいた。今後は、ユニット職員が、積極的に施設内勉強会や研修に参加できるようにしたい。
- 4、季節感のある行事を行う機会が少なかった。
- 5、昨年度に比べ職員一人ひとりが自分の意見を持ち意見交換が積極的に行われた。

○ささもりユニット

4月	4～6日 花見	11月	21日 誕生会
5月	14日 母の日	12月	23日 クリスマス会
6月	10日 父の日	1月	30日 誕生会
	18日 ビアガーデン	3月	26日 誕生会

《活動報告》

- 1、「チーム力を駆使して、ご入居者の望む質の高いサービスを目指す」という目標に対し、各職員がご入居者の積極的支援に携わっていた。申し送り用紙を中心に、身体状況や生活の様子（余暇活動での様子、嗜好物、小さな変化……等）など、細やかに生活の様子が記録されていた。また、記録だけでなく、口頭での申し送りも同様に行われ、発信者・受信者も情報の共有化を積極的に行っていた。実際にご入居者からも「痒い所に手が届くね」とお褒めの言葉を頂くこともあり、一定の効果はあった。

活動計画にもある“言葉と文字と表情”で伝え合う！は、ほぼ達成されていたと考える。一方24Hシートに関しては、約5名様の手帳作成に取り掛かったが、達成度としては10%にも満たない状況となってしまった。継続性をもって次年度への継続活動としたい。

- 2、「ご入居者の生きがいと職員のやりがいが、共に連動したユニット運営を目指す」という目標に対し、年間を通してご入居者からのご要望に応える形での行事運営を行っていたように思えるが、企画運営の滞った期間があったことも否めない。企画の中心となる職員とそうでない職員との偏りもあったが、互いに指摘し合いながら取り組んでいた。

“生きがいとやりがいの統合”をスローガンに掲げてきたが、介護度の重度化に伴う業務量の増加、度重なる職員の欠員によりやりがいを感じる感性を育むまでに至らなかったことが今後の課題点として挙げられる。

- 3、「清潔な環境を保持しながら、ご入居者の求める快適かつ機能性の高い『家』づくりを目指す」という目標に対し、介助量・業務量の増加傾向にありながらも、各職員が時間を見つけて環境整備に取り組んでいたことが良かった。清掃表を活用し、清掃の有無を「見える化」したことで、各自責任感が芽生えはじめてきたように思えた。しかしながら、ご入居者の生活のし易さ、快適さの視点から見ると、椅子やテーブル高の調整、各居室の作りこみ等が、ご入居者によって大きく偏りがあったため、作り込の際に一つの指標となるものが必要だと感じた。

職員の働きやすさという視点においても、整理されているところ、手つかずで物が乱雑に置かれているところがあったので、計画性と役割をもって取り組むことが次年度の課題。

○あぶくま・あづまユニット（ショートステイ）

4月	9日 ジャガイモ餅を楽しむ	10月	10日 おやつレク(お好み焼) 30日 ハロウィン
5月	9日 レディースデイ(プリン)	11月	8日 秋祭り
6月	20日 メンズデイ(プリン)	12月	10日 クレープ作り
7月	9日 白いんげんの冷製汁粉	1月	14日 かぼちゃとさつま芋のパウンドケーキ
8月	14日 桃のクラフティ 18日 夏祭り	2月	11日 麩レンチトースト作り
9月	10日 おやつレク(マシュマロアイス)	3月	11日 パウンドケーキ作り 24日 ふきのとう味噌作り

《活動報告》

- 1、毎月5のつく日は「ご飯の日」として調理レクを一緒に行う取り組みを継続している。
→職員も事前にレシピを把握し準備を行えるようになってきた。ご利用者からも「楽しみ」「家ではやれないから」と楽しみにされている方も多く、今後も継続していきたい。
→ご利用者からリクエストをもらいながら献立を立てる取り組みも行った。今年度、多く聞かれた「鍋」の実施には至らなかった為、次年度の予定としたい。
- 2、第1・3週の金曜日は「音楽を楽しむ会」を開催。以前から好評であった「音楽療法」が開催されなくなった事もあり、ショートステイユニット独自の「音楽の日」を開催した。
→事前の準備は職員全員で協力して行い、当日も担当にのみ任せることのない様に配慮し、協力しながら行えている。ご利用者からも「声を出せるのは楽しい」「体操もあって身体を動かせるのは気持ちが良い」といった反応もあり。今後も無理なく継続していけるように協力しながら取り組んでいきたい。
→ユニット職員の移動もあり6月から9月まで実施。
- 3、居室で過ごされるご利用者が増えており「皆で集まって…」という行事の実施は少なくなっている。個々に応じたレクや利用中の楽しみを見つけ柔軟に対応していく必要あり。
- 4、第2金曜日は「おやつの日」とし利用者と季節感のあるおやつを作り、美味しく楽しみのあるレクを行う。
→行事のある月は行事に合わせて日にちを変更し季節感も感じて頂く。
- 5、入浴介助は日により変動が多かったが1階職員の協力もありリフト浴、個浴等を実施し清潔保持に繋がられた。

《看護部門》

○看護活動報告

① 健康状態の把握

他職種と連携し、健康状態の把握と異常の早期発見に努め、異常時に迅速な対応を行い状態悪化の予防に努めた。短期入所ご利用者に関しても、早期の対応にて体調悪化の予防に努めた。

② 定期健康診断

入居者・・・年1回の基本健診 8月実施

職員・・・年1回の基本健診 12月実施

腰痛検査年2回 6月と12月の基本健診時に実施。(夜勤を行う職員と看護職員)

年1回のストレスチェックを実施した。

③ 健康の維持

- ・ 定期、臨時通院の判断をし、他職種の協力を得ながら行った。
- ・ 環境調整の指導を行い、体調の変化に注意し疾病予防に努めた。

④ 感染症対策委員会の活動

教育委員会協力のもと、吐物処理・感染症の勉強会を開催したが、職員の感染予防に対する取り組みの見直しと勉強会の内容の再検討の必要性を感じられた。

⑤ インフルエンザ予防接種実施・・・11月下旬、12月上旬に実施

⑥ R3 年度インフルエンザの罹患患者はなく問題とはならなかったものの、新型コロナウイルス予防への対応・対策が主となった。

⑦新型コロナワクチン予防接種（ファイザー）

入所者・・・5月、6月および2月に実施した。

職員・・・5月、6月および2月に実施した。（新入職員は個別にて実施。）

⑧緊急時の対応

- ・救急蘇生の講習の参加は新型コロナウイルスの影響にて実施できず。
- ・個別の医療的な対応について勉強会等を行い再確認する。

⑨他医療機関、主治医との協力体制

ご利用者様の状態、症状に合わせ主治医や医療機関との連携を図り悪化予防に努めた。

⑩ターミナルケア

看取り委員会の定期的な開催ができた。今後は、看取りに関する勉強会を多くし、職員の意思の統一と積極的な関り、職員主体の看取り介護となるよう努める。

○機能訓練活動報告

①レクリエーション、趣味活動の提供について

- ・ご利用者の楽しみの機会や残存機能の維持を目的として、スケジュールを立て集団レクリエーションを定期開催できた。
- ・ご利用者個人の能力に合わせ、難易度を調整し関わることができた。
- ・余暇時間の過ごし方として、ご利用者の嗜好や興味のあることの引き出しが難しく、取り掛かれそうな作業の提供ができなかった。→今後も提供できそうな作業を模索していく。
- ・ユニットへの働きかけ（活動の必要性、ユニット内でできることの提案など）が不十分であった。→機能訓練主催の研修会を開催し、知見を広めていく。

②コミュニケーションの場を提供（認知症への対応も含む）について

- ・集団レクリエーションや少人数でのご利用者同士が交流できる機会を提供できた。
- ・集団が苦手なご利用者に対しては個別での関わりを設け、反応を引き出すことを促した。
- ・寝たきりで居室で過ごす時間の長いご利用者にも、こまめに声掛けを行った。
- ・機能訓練のスケジュールで回っていると、声掛け多い方と少なくなってしまう方の差が出てしまった。→ユニットに回った際に介入予定のない方へもこまめな声掛けを行う。

③生活場面で残存機能を発揮する方法の提案（必要に応じて個別リハ）について

- ・カンファレンスの場を活用して、他職種に提案することができた。
- ・機能訓練から提案はできたが、現状としてはユニットで継続できるかが課題。
→カンファレンス後も随時状況を確認し、ユニットの職員が介入できるよう擦り合わせを行う。ユニットによって環境に差があるため、各ユニットに合った支援方法を検討し提案。施設資源の見直し。

④拘縮・褥瘡予防のため、可動域訓練、ポジショニング、シーティング等について

- ・ご利用者の身体状況に応じて、介入の頻度や介入内容を随時見直しながら関節の拘縮・褥瘡の予防目的に関節可動域やポジショニングを実施した。
- ・ご利用者が安楽な姿勢で過ごすことができるよう、クッションの作製やポジショニング、シーティング方法の写真の掲示などを含む伝達を各部門に行った。
- ・ユニットでもポイントを押さえたポジショニングを継続したことで、効果がみられた。
- ・クッション等の資源が足りないのが現状。→ストッキネットクッションなどを製作するが追いつかず、どのように捻出するか他部門と協議が必要。
- ・施設全体でまだ取り組んでいる状況ではなく、拘縮の進行が著しい。→機能訓練主催での研修を実施し、重要性の説明や基本的な手技を伝達していく。

《栄養部門》

- ①季節の行事食を提供し、食事で季節を味わっていただけるようにするという目標に対し
→昔ながらの季節の行事食を取り入れ、旬の食材を使用して四季の移り変わりを感じて頂けるよう努めた。
- ②月に1度、ごちそう感のある献立、あるいはリクエストの多い献立の提供を行い、楽しみあえる食事の提供ができるようにするという目標に対し
→嗜好調査の結果や日々の食事の中でのご利用者の声を反映させ、外食に行くようなイメージで、ごちそう感のある献立を部門内で検討、提供した。
- ③季節ごとに注意すべき食中毒や感染症に関すること、衛生に関すること、栄養に関すること、食事に関すること等の勉強会を行い、感染症の予防と栄養・衛生に関する知識の向上に努めるという目標に対し
→栄養委員会と連動して実施。栄養部門として自発的な研修活動や、施設に発信できる機会があってもよかった。
- ④クリーンタイムを設け、月ごとに清掃箇所を決めて清掃を行い、感染症・食中毒予防と、より衛生的で働きやすい環境作りに努めるという目標に対し
→定期的な清掃を行い衛生的に厨房の環境を維持することができた。感染症予防の共用部分の拭き上げ等も毎日決められた時間に実施することができた。
- ⑤ご利用者の体調や食事摂取の状況を把握し、必要時に栄養介入できるよう他部門と連携を深め、情報を共有し一人ひとりに合わせた栄養ケアの提供に努めるという目標に対し
→栄養ケアを実施することで、ご利用者の体調や食事摂取状況の把握、病態に合わせた食事の提供等、他部門と協議しながら細やかに対応することができた。カンファレンスの際に必要な情報提供を行った。看取り介護の方へは食事の枠にとらわれない食事の提供を継続していく。
- ⑥ 業務分担における見直しを行い、直営である利点を生かし、栄養部門における業務が円滑に実施できるよう努めるという目標に対し
→調味料や特殊食品の発注、調理指示書の前倒しに関する調理の指示と発注の確認を担当制にして一時的に調理員が実施した。栄養士業務の時間を確保し、栄養士が担当できるようになった後に再度栄養士業務にそれらを戻した。栄養士と調理員で相互に確認し合えるようになり、連携しながら業務が継続できるような体制作りを組むことができた。

全体的に、計画通りに実施することができた。これらの反省も踏まえて、前年度もより良い食事の提供ができるよう取り組んでいきたい。

《会議、各種委員会報告》

○職員全体会（3カ月毎開催）

6月30日	2年度収支報告・災害時連絡体制更新について、身体拘束、虐待防止研修など	12月28日	基本理念勉強会、新型コロナ感染拡大防止対策について、規程勉強会、報告書様式改正、虐待防止研修など
9月30日	ショートステイ運営・新型コロナ感染拡大防止対策・加算支給について、ストレスチェック実施など	3月26日	規程変更、組織編成、処遇改善等手当、次年度活動についてなど

○調整会議

4月21日	新型コロナ予防・対策、今年度行事など	10月20日	エアコン入替工事、予防接種、法人監査報告など
5月19日	新型コロナ予防・対策、厚労省報告書勉強会、夜間連絡体制など	11月17日	面会制限、人事考課、弾力的勤務体制など
6月16日	非常時のライフライン確保と連絡体制、新型コロナ予防・対策、次月予定など	12月15日	施設自己評価、喀痰吸引勉強会、施設内連絡方法、職員互助など
7月21日	季節感を感じられる行事、入居者健診、ショートステイ稼働、新型コロナ対策、永年勤続表彰など	1月19日	次年度計画、コロナウイルス対応シミュレーション、サンクスカードの在り方など
8月18日	技能実習生第2陣、新型コロナ対策、接遇、非常時・停電対応、次月の予定、ショートステイ稼働など	2月16日	施設自己評価結果、処遇改善等手当、技能実習生受入、コロナ濃厚接触者の扱い、急な欠勤者への対応など
9月15日	エアコン入替工事、介護実習生受入、ストレスチェック実施、報告用紙変更など	3月16日	就業規程変更、介護部門全時間責任番、各種年度報告、次年度目標など

○ユニットリーダー会議

4月1日	新型コロナ発生時シミュレーション、委員会年度引継ぎ、職員面談、新人教育、欠勤者発生時の援助体制など	10月7日	介護実習生受入、勤務体制見直し、欠勤者発生時の援助体制、各種情報共有など
5月6日	リフト浴取扱い説明、新型コロナ発生時シミュレーション、各種情報共有、勤務引継ぎ方法など	11月4日	会議の進行、各種情報共有など
6月3日	LIFE 実施方法、各種情報共有など	12月2日	新型コロナ対応、各種情報共有など
7月1日	施設 LINE 活用方法、各種情報共有報告書様式改訂など	1月6日	各種情報共有、記録の統一、勤務引継ぎ方法など
8月5日	事故再発防止、各種情報共有など	2月3日	次年度計画、新型コロナ対策、記録ソフト活用、BCP 作成、各種情報共有など
9月2日	技能実習生について、各種情報共有など	3月3日	自己評価、行事参加方法、記録統一、時間帯責任番設置、各種情報共有、施設内研修など

○教育委員会

- ・昼礼の時間を活用し、月に1回挨拶・身だしなみの重要点を伝えた。
- ・ZOOMを活用し、外部講師によるオンライン研修を実施した。
- ・確実に基礎知識を身に付けられるように、教育委員会で研修内容を厳選した。
- ・教材としてレクリエ、月刊デイ、ブリコラージュを購入し、職員が自己研鑽できる機会を作った。書籍が施設外持出できず、読む時間を確保できないという声があった為、委員会で話し合い、書籍は2年分を施設外持出厳禁とし、それ以前の物は希望者に譲り、活用し易くした。

- ・職員が参加し易い時間での研修開催を行った。

○感染・褥瘡予防委員会

- ・常にご利用者の状態を把握し、異常の早期発見・早期対応ができた。
- ・感染予防に努めた結果、インフルエンザやノロウイルス等の発症は無かった。
- ・嘔吐物処理セットの準備・点検に努め、嘔吐があった場合には使用につなげた。
- ・9月、11月には、感染症予防の研修会を開催した。
- ・褥瘡の状態の確認や新たにできた人、治癒した人の確認ができた。
- ・褥瘡ができてしまった人へは、早期対応、栄養介入を含めポジショニング等、各部門で連携して対応したが、褥瘡治癒後、同じ所に褥瘡ができてしまった方がいた。
- ・褥瘡形成後の処置で医務が介入し、栄養課が栄養面から治癒力向上を目指し、介護は褥瘡予防の実行を行ったが予防方法の知識不足（個人差あり）が見られた。
マニュアルの学び直しが必要、褥瘡予防・形成・治癒までの評価と対策を話し合い予防への意識を高め、OT（作業療法士）も連携することとした。

○自己評価委員会

12月に各部門代表者およびユニットリーダーが、福島県第三者評価基準を基に、施設サービスや質について評価し、低評価項目を調整委員会にて具体的な改善提案を検討した。

○事故防止、身体拘束防止委員会

- ・服薬マニュアルを見直し、各ユニットのミス防止策を共有して事故削減に努めた。
- ・福祉用具点検項目に従い、定期チェックを行った。
- ・事件事例を分析し、再発防止と予防啓発に努めた。
- ・身体拘束防止、虐待防止研修を職員参加型で2回開催し、職員一人ひとりの意識付けと技術や介護観の向上に努めた。

○栄養管理委員会

- ・献立内容、食材の選定、調理法、食事形態、提供方法における食事内容に関する検討を行った。食べやすい提供方法と共に、安全に食べることができる方法についても検討した。2ユニットで1人の委員配置のため、報告書だけでない伝達方法についてやや課題が残った。
- ・行事食の内容や提供方法について内容の検討と提供方法の確認を行った。
- ・勉強会を各委員が月交代で行うことで、それぞれの委員の視点から興味があることや調べてみたいことがテーマとして挙がり、感染症の予防と栄養・衛生に関する知識の向上に努めることができた。

○行事委員会

- ・昨年に引き続きコロナの影響で外出等の催しを行う事が出来なかった。コロナ禍での「楽しみ」とは何かを考えさせられた。また、行事委員の交代等が多く、計画していた行事を中止または延期にする事が多かった。その為、例年より行事が少なくなった。
- ・行事委員が主体となり行事計画を行うという活動目標は達成する事が出来たが「どこまで」委員会で行うべきなのか判断がつきにくい部分もあった。シフトの関係上、委員不在の時はユニット職員が協力し円滑に実施出来たケースもある半面、委員以外への行事内容等の伝達が不十分な場面もあった。計画書配布だけで終わらず、行事委員からの発信をもっと積極的

に行っていく事も必要。

- ・料理クラブを通年で行い、台所に立てなくなった料理好きの方にはとても喜んで貰えた。
- ・行事終了後にアンケートを依頼する事で行事委員だけでなく、関わった職員の声を反映した報告書を作成する事が出来た。

○看取り委員会

- ・コロナの影響により面会制限を行うなか、看取り者に関し、ご家族の意向に添え、納得のいくよう説明や相談の機会を多く設け、安心して最期を迎えられるよう不安の軽減に努めた。
- ・看取りに関する職員研修を開催したり、ケアカンファレンスを通じ介護計画を基に、職員間の情報共有を行った。
- ・ふりかえりのカンファ開催が勤務の関係で決められた期間内に開催困難な事もあったが、内容的には有意義であった。

○業務改善委員会

- ・業務標準マニュアルを刷新するため、職員アンケートを実施し、実態に沿ったマニュアルを作成することができた。作成する過程において業務を振り返る機会を設けられたことも有意義であった。
- ・ご入居者毎にオムツの評価を行い、新たなメーカーからサンプルを取り寄せ、環境改善に繋がった。

○衛生委員会

- ・働き易い環境を作る意見交換
- ・定期健康診断やストレスチェックの結果について意見交換して職場環境改善に努めた。
- ・新型コロナウイルスの情報をいち早く周知し、感染拡大に努めた。
- ・職場環境の適正化を継続するため、①ストレスチェックデータ活用②コロナ禍での口腔ケア③睡眠管理術④福島市のハザードマップ⑤ハラスメント防止⑥高齢になっても働ける秘訣⑦境界型糖尿病⑧脂質異常症について研修を行った。

○安全委員会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修は行わず、看護師による実地指導を適時行うことで安全な吸引実施に努めた。

《研修実績》

月	施設外研修（オンライン）	施設内研修
4月	チームケア	
6月	陰部洗浄・排泄介助	身体拘束防止
8月		褥瘡予防
9月	移乗介助	嘔吐物処理
11月	褥瘡予防	感染症予防、ウイルスを持ち込まない
12月		身体拘束・虐待防止
2月		看取り
3月		人権コンプライアンス研修

《ボランティア受入・地域行事・施設行事》

月	ボランティア	地域行事	施設行事
4月	コロナウイルス感染 防止の為自粛	コロナウイルス感染 防止の為自粛	ユニット毎お花見外出
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			14日 敬老会
10月			
11月		↓	16日 百寿お祝い会 22日 百寿お祝い会
12月		3日 福祉作品展	17日 百寿お祝い会
1月		コロナウイルス感染 防止の為自粛	18日 百寿お祝い会
2月		↓	
3月	↓	↓	

《行事食実績》

4月	1日 お花見ごはん 21日 ごちそう献立（刺身）	10月	7日 みず和の郷開設記念メニュー 22日 ごちそう献立（炒飯、餃子）
5月	5日 端午の節句 7日 ごちそう献立（パスタ）	11月	8日 秋祭り（芋煮） 16日 百寿お祝い献立 19日 ごちそう献立（舞茸ご飯、刺身） 23日 百寿お祝い献立
6月	24日 ごちそう献立（ぼたもち）	12月	17日 百寿お祝い献立 21日 冬至（かぼちゃ） 24日 クリスマスメニュー 31日 年越しメニュー
7月	7日 セタメニュー 22日 ごちそう献立（天井） 28日 土用丑の日	1月	1～2日 正月おせち料理 3日 三日とろろ 7日 七草粥 11日 雑煮汁 15日 小正月 18日 百寿お祝い献立
8月	12日～14日 お盆メニュー 20日 ごちそう献立（ちらし寿司）	2月	3日 節分 25日 ごちそう献立（松風焼、けんちゃん）
9月	14日 敬老会お祝い膳 21日 十五夜メニュー 21日 手作りふりかけ 23日 秋分の日メニュー 24日 ごちそう献立（天ぷら）	3月	3日 ひな祭り 6日 ごちそう献立（パスタ） 21日 春分の日（ぼたもち）

《居宅介護支援事業所》

- ・福島市と介護認定調査契約を締結し、依頼のあった方の調査を行う。
- ・他居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等との横のつながりを通じて情報収集し、適切な介護サービスへ繋いだ。
- ・緊急受け入れ等の事例も含め、ショートステイ、特養との連携を図った。
- ・コロナ禍において地域ケア会議が開催されなかったため、定期的に包括支援センターや医療機関等へ挨拶回を実施した。

《利用者実績報告》

	居宅サービス 作成依頼件数	要介護区分				
		1	2	3	4	5
4月						
5月						
6月						
7月	1					1
8月	2		1			1
9月	2		1			1
10月	4	1	1			2
11月	8	3	1		2	2
12月	12	4	3		3	2
1月	14	6	3	1	3	1
2月	17	5	4	3	3	2
3月	24	9	7	4	2	2
合計	84	28	21	8	13	14